

守っ てい きた い 田んぼ

今治市立日高小学校 6年 宇高 成彦

ぼくが、家で食べるお米は、生まれてからずっと家族みんなで作ったお米です。他のどのお米より一番美味しいです。

田植えや稲刈りの時期には、必ず手伝いをしています。水がはった田んぼに、どんどん緑色の模様が ついて いたり、たよりなくひよろひよろしていた苗が立派な稲穂になってキラキラしている光景が大好きです。

お父さんは、仕事が忙しいので、普段はじいちゃんとはあちゃんが田んぼのことをしています。でも、最近 は 体力的にきつくなっ て 大変そうにしています。小さい時のぼくは、手伝いをするこ と よりも 田んぼに入っ て どのこになっ て 遊ん だり する だけ だっ た けど、大きくなるにつれてじいちゃんとはあちゃんから、

「なるくんありがとう。助かったよ。」
と言っ て も ら え る こ と が た く さ ん 増 え て き て

とてもうれしいです。

米作りは、田植えと稲刈りの時期が一番忙しいけど、その他、一年間通してやらないといけない作業がたくさんあります。秋から春にかけて、何度か田んぼを耕します。田植えの前には代かきや肥料をまいたり、夏の間は除草作業や水の管理で一日に何度も田んぼに行っています。

去年は、稲にとって大敵な害虫である「ウンカ」が発生しました。葉や茎を枯らしたりウイルス病をうつすなどして、田んぼの何カ所にも穴ができ、そのため収穫量も減り、農家の人たちを困らせました。じいちゃんとはあちゃんも、いつも以上に体力をつかって大変そうでした。そんな二人を見て、これからはお父さん、兄ちゃん、ぼくががんばっていないといけないと強くなりました。

学校までの通学路には、たくさん田んぼがあつて作業をしている人をよく見かけます。でも、若い人が作業をしていることがほとんど。

どありません。家やマンションが建って、
らんどん田んぼが少なくなっただけの大好きな
光景が減ってきているので、とても残念で
す。

最近では、食生活が変わり、パンやめん類
を多く食べるようになってきたために米の生
産量と消費量が年々減少していることをニュ
ースで知りました。これからの農業の未来が
心配です。米作りを続けていくことは難しい
ことなのに、先祖代々、家族みんなが米作り
をしているぼくの家はとても自慢できる家な
らんだと思います。

毎日ごはんを食べているからぼくは元気に
生活ができています。家族みんなで作ったお
米は最高のごはんです。元気の源がお米を食
べることというのを多くの人を理解して、み
んなで日本の農業を支えていけたらとてもす
ばらしいことだと思います。